



# NEWS

## 「ご献体の日祈念式典」を行いました

総務課総務係

島根大学医学部では、2026年3月10日(火)に「ご献体の日祈念式典」を行いました。式典には大谷学長をはじめ、教職員及び学生など約140名が出席しました。

献体登録をされた方々で組織されている篤志団体である「有終会」会長の東様、大谷学長、学生代表の近藤さんから誓いの言葉が述べられ、ご献体いただいた方々へ改めて感謝と敬意を表するとともに、社会に貢献する医療人の育成のため尽力していくことを誓いました。

医学教育の基盤となる解剖学実習は、ご献体くださる方々の尊い志によって支えられています。学生は実習を通して、ご献体から人体の構造を学ぶだけでなく、献体という崇高な行為に対する深い感謝の念を抱き、ご献体いただいた方々の期待に応えるべく、医療人としての使命と責任を自覚します。

ご献体は医学生に、医療従事者としての責任と自覚を育む、大きな精神的支えとなっています。

問い合わせ先 総務課総務係 TEL:0853-20-2506

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2026年5月15日～6月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
6月14日(日) 13:30～16:00	出雲市民フォーラム ～島根大学病院の最新治療 2026年初夏～	臨床講義棟	一般	島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

## 令和7年 ワークライフバランス川柳 優秀作品

賞名	受賞作品	ペンネーム(又は氏名)
大野副病院長賞	初めての 推し活始め 意欲わく	そうこう
田邊副病院長賞	むすこには ふりまわされる いつまでも。。。	すぐのど



## CONTENTS

中表紙  
・ 病院長補佐就任のご挨拶  
・ 教授就任のご挨拶

裏表紙  
・ 「ご献体の日祈念式典」を行いました  
・ 島根大学医学部における  
研修会・講演会・セミナー開催情報

表紙: 病院長補佐  
臨床遺伝・ゲノム医療センター  
教授 山本 寛彦

## (医療安全担当) 病院長補佐就任のご挨拶

臨床遺伝・ゲノム医療センター 教授 やまもと ひろまさ  
山本 寛齊

2026年4月より病院長補佐(医療安全担当)を拝命いたしました、臨床遺伝・ゲノム医療センターの山本寛齊です。2024年1月に当院に着任しましたが、同年7月からは自部署のリスクマネージャーも務めております。

医療安全の確保は医療における最も基本的で重要な要件の一つです。患者の安全を最優先に考え、全ての医療従事者が各々の役割に応じて医療安全対策に向けて積極的に取り組むことが必要であり、医療安全の実現を目指す態度や考え方としての「安全文化」を醸成し、これを医療現場に定着させていくことが求められます。近年の医療現場は高度化・複雑化が進んでおりますので、患者の安全を守り、医療の質を向上させるためには、多くの診療科・部門、多職種が横断的に協力する体制が、今まで以上に重要となっております。

当院は県内唯一の特定機能病院であり、高度な医療を提供する責務がありますが、そのためには医療安全管理体制が十分に整備されていることは論を俟たないと存じます。現場から寄せられる意見をしっかりと受け止め、患者に安全・安心な医療を提供できるよう、これまで以上に努めてまいります。今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



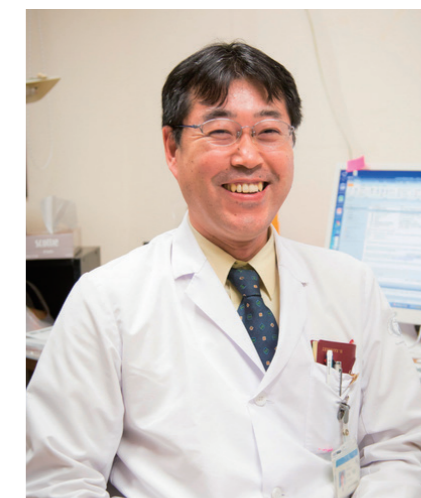
## 教授就任のご挨拶

産科婦人科学講座 教授 かなさき はるひこ  
金崎 春彦

このたび、2026年4月1日付けで産科婦人科学講座教授を拝命いたしました金崎春彦と申します。私は1989年(平成元年)に鳥根医科大学(現・鳥根大学医学部)の14期生として入学し、1995年に大学を卒業致しました。そして本学初代の産科婦人科教授であった北尾学先生のもとに大学院生として入局し、産婦人科医としてスタートを切りました。2000年に本学助手(現助教)となり、数年間の海外留学期間を挟み、ほぼ一貫して本学産科婦人科学講座に在籍しております。

医師になりまして30年以上鳥根大学において臨床及び研究に従事しておりますので鳥根県内の医療事情に関しましては概ね熟知しているつもりでございます。現在鳥根県内の出生数は30年前と比べてほぼ半減し、開業医を中心にして分娩取り扱い施設も減少しております。県内産婦人科医の70%が女性医師となった今、医師の働き方にも配慮しながら、限られた医療資源で如何に安心・安全な産科医療を県内各地で提供していくかを考えていく必要があります。「地域とのネットワークを重視した医療の展開」は鳥根大学病院の基本方針でございます。県内医療施設、行政とも密に連携し、私たちの役割を果たしていきたいと考えております。

鳥根県内の産婦人科医療が引き続き維持・発展できるよう人材育成に努め、当院が産婦人科医療の「最後の砦」として確実に機能するよう今後とも医局員と一緒に精進してまいります。引き続きどうかよろしくお願い申し上げます。



問い合わせ先 臨床遺伝・ゲノム医療センター TEL:0853-88-3053

問い合わせ先 産科婦人科学講座 医局 TEL:0853-20-2268



# お知らせ

## 皮膚科診療の変革

皮膚科学講座 教授 やまさき おさむ  
山崎 修

皮膚科領域では近年、生物学的製剤や分子標的治療薬の適応疾患が飛躍的に拡大しています。従来は重症の乾癬やアトピー性皮膚炎が中心でしたが、現在では円形脱毛症、化膿性汗腺炎、蕁麻疹、壊疽性膿皮症、類天疱瘡、悪性黒色腫など多岐にわたる疾患に適応が広がっています。さらに、JAK阻害薬をはじめとした低分子標的薬の登場により、これまで治療選択肢が限られていた難治性疾患に対しても高い治療効果が期待できるようになりました。

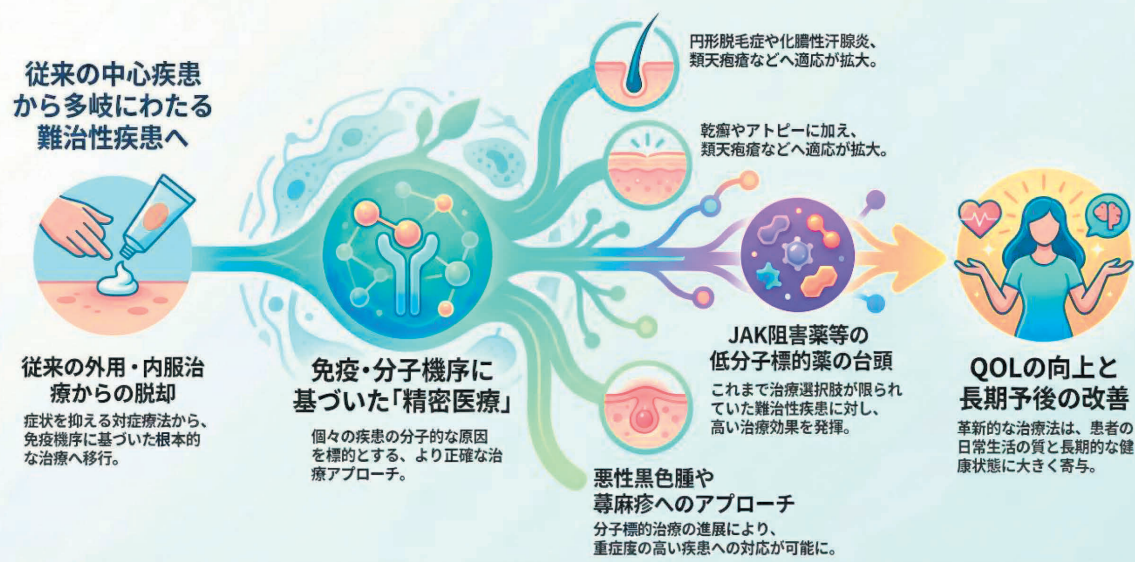


これらの進展により、皮膚科診療は従来の外用・内服中心の治療から、免疫・分子機序に基づいた精密医療へと大きく進化し、患者さんのQOL向上と長期予後の改善に大きく寄与しています。

さらに当科では、臨床研究センター治験管理部門による支援体制のもと、現在蕁麻疹、皮膚掻痒症、悪性黒色腫、有棘細胞癌などの皮膚疾患を対象に、第II相・第III相を中心とした国際共同治験や医師主導治験を積極的に実施し、次世代の標準治療の創出に参画しています。治験数は院内でもトップレベルです。

皮膚疾患でお困りの症例がございましたら、ぜひ当院へご紹介賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 皮膚科診療の変革：革新的な薬物療法と精密医療の到来



問合せ先 皮膚科学講座 医局 TEL : 0853-20-2210



# ご報告



## ロボット大腸手術の執刀医になりました

消化器・総合外科 きしもと あやな  
岸本 彩奈

消化器領域におけるロボット手術は急速に普及し、現在は中心的存在になりつつあります。当科では、食道がん、胃がん、大腸がん、膵臓がんなどの悪性腫瘍に対する手術において、低侵襲性、精密な操作性、術者への負担軽減といった多くの利点から、従来の腹腔鏡手術にかわり、ロボット手術が標準治療となっています。

大腸領域では、術者資格を得るためのハードルが高く、なかなか執刀医となることはできない状況が続いていましたが、このたび、手術支援ロボットの術者資格である da Vinci Xi Console Surgeon の Certificate を取得し、先日、初めて執刀する日を迎えることができました。ロボット手術ならではの3Dハイビジョンによる鮮明な視野は、細かな解剖構造の認識に非常に優れており、従来の手技では難しかった繊細な操作を可能にします。実際に手術を行う中で、出血量の抑制や合併症リスクの低減に大きく寄与することを身をもって実感いたしました。なお、現在も研鑽の途上ではありますが、日々、上司や同僚、後輩から多くの助言を受けながら、経験を重ねています。

今後、ロボット手術のさらなる普及・発展のためには、医師だけでなく、看護師・臨床工学技士をはじめとした医療従事者のトレーニング体制の充実や手術手技の標準化などが重要となります。当院消化器・総合外科では、これらの取り組みを通じて、ロボット手術を消化器疾患治療における新たなスタンダードとして確立できるよう、チーム一丸となり、真摯に疾患と向き合いながら進んでまいります。これからも、患者さん一人ひとりにより安全で質の高い医療を提供できるよう、日々努力してまいります。

問合せ先 消化器・総合外科 医局 TEL : 0853-20-2232





# ご報告



# ご報告

## 外来編

### 患者満足度データが示す、当院の医療の質と信頼性 — 高水準・高評価を支える継続的な取り組み —

2026年度版

外来診療における医療サービスの改善を目的として、当院では年2回、患者満足度アンケートを実施しています。2025年度は、462名の方からご回答いただきました。全体の平均満足度スコアは86.48点（95%信頼区間：85.47～87.49）と、過去4年間の中で最も高い水準となりました。年度間で統計的に有意差が認められ、全体として改善傾向が示されています（図1）。

待ち時間に対する不満の割合は年度間で有意差が認められ、2025年度では過去数年と比べて不満と回答した割合が低下しました。特に「診療までの待ち時間」「会計までの待ち時間」のいずれにおいても同様の傾向が確認されており、外来診療フロー全体における改善効果が明確に示されています（図2）。これらの取り組みは、患者満足度向上WGを中心に、診療フローや会計業務等の見直しを継続してきたものです。今後も患者さんの声を起点に、医療の質向上に取り組んでまいります。

患者満足度向上WG

かわむら としひこ  
医療情報部 准教授 河村 敏彦

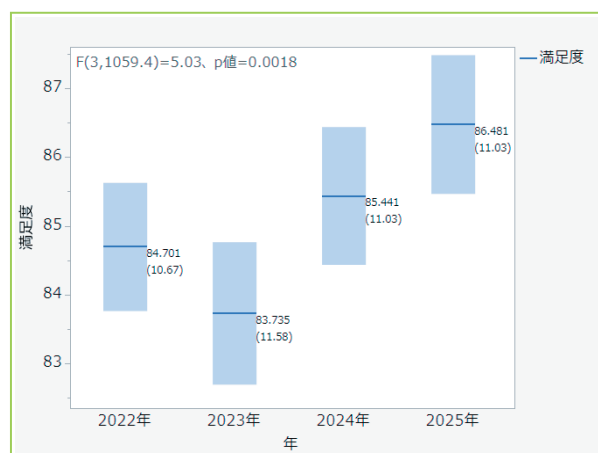


図1 患者満足度スコアの年度別推移

シエアチャート			応答				回答者数
			とても不満	不満	満足	非常に満足	
応答	10-1 診療までの待ち時間	2022年					560
		2023年					531
		2024年					501
		2025年					499
	10-2 診療をおえて会計までの待ち時間	2022年					520
		2023年					499
		2024年					467
		2025年					470

図2 外来待ち時間に対する評価の年度別推移

問合せ先 医療サービス課 TEL：0853-88-3401



集合写真



消防訓練

## 新人看護職員が入職しました

かわかみ としえ  
看護部 看護部長 川上 利枝

今年度55名の看護職員が入職いたしました。新しいユニフォームに袖を通し、やや緊張した表情の中にも、医療の担い手として歩み始める決意と成長への意欲が感じられました。入職にあたり、それぞれが看護職としての責任と自覚を新たにし、看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護を提供」を実践していく第一歩を踏み出しています。入職時には、他職種と合同で医療安全や感染対策に関する研修や消防訓練に参加し、医療チームの一員として必要な基本的知識と姿勢を学びました。職種の枠を超えた連携の重要性を理解しながら、安全で質の高い医療の提供に向けた基盤づくりを行っています。

看護部では、新人教育を人材育成の基盤と位置づけ、キャリアラダーに基づいた教育体制を整えています。看護実践能力を段階的に高めていくことを目的に、集合研修と現場でのOJT(※)を計画的に連動させ、基礎的な看護技術・知識の習得から、臨床判断力や多職種連携まで、成長段階に応じた支援を行っています。また、実地指導者を中心に部署全体で新人を育成する体制を構築し、安心して学び、振り返りながら経験を積み重ねられる環境づくりに力を入れています。新人一人ひとりの着実な成長が看護の質の向上につながるよう、看護部一同支えてまいります。皆さまの暖かい応援をよろしくお願いいたします。

(※) On-the-Job Training (実地での訓練)

問合せ先 看護管理室 TEL：0853-20-2478





# ご報告

## 第2回 看護職ベストジェネラリスト表彰式を行いました

看護部 看護部長 かわかみ としえ  
川上 利枝

専門職には、それぞれの立場で役割を担うジェネラリストとスペシャリストがおり、互いに力を発揮しながら連携することで、専門性を維持・発展しています。看護職においても同様に、幅広い場面に対応するジェネラリストと、専門性の高い分野で活躍するスペシャリストが協力し合い、より良い看護の提供を支えています。ジェネラリスト看護師は、特定の分野にとらわれることなく、経験や継続的な学びを通して身につけた知識と技術を生かし、患者さん一人ひとりや状況に応じた看護を実践する存在です。

近年、患者さんから看護職に対する感謝や温かいお言葉をいただく機会が増えています。その背景には、日々の現場で患者さんと向き合い、看護の質を支えている多くのジェネラリストの確かな実践があると考え、本表彰を企画しました。各部署の看護職員から推薦を募り、26 部署から 26 名が選ばれました。推薦理由としては、「患者さんへの対応がとても丁寧で、スタッフからの信頼も厚い」「自身の知識や技術を後輩に伝え、育成に力を発揮している」などの声が寄せられました。

これらの功績を称え、2026年3月19日(木)に第2回ベストジェネラリスト表彰式を行いました。同じ職場で働く仲間からの推薦による表彰に、受賞者の喜びや感謝の気持ちが感じられる、温かみのある式となりました。看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護の提供」に向け、引き続き職員一同努めてまいります。



問合せ先 看護管理室 TEL : 0853-20-2478



# ご報告

写真1



写真2



写真3



## 病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式

医療サービス課

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、地域の皆様による環境整備や玄関ホールでの案内、患者図書室「ふらっと」の補助、病院1階の生け花等、様々な場面で個人及び団体のボランティアの皆様にお世話になっています。

2026年3月24日(火)、6団体と26名のボランティアの皆様へ、田邊副病院長(当時)から表彰状並びに感謝状を贈呈し、1年間のご尽力に対し当院を代表して感謝のことばをお伝えしました。(写真1.2)

また、贈呈式終了後は病院執行部との懇談会が行われ、日頃のボランティア活動に従事いただく中での感想やご提案など、ボランティアの皆様のお声を直接伺いする貴重な機会となりました。(写真3)

当院では、新たにボランティアをしてくださる方を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

問合せ先 医療サービス課 ボランティア担当 TEL : 0853-20-2068





島大病院ニュース 2026年5月

# ご報告



島大病院ニュース 2026年5月

# ご報告

## 採用職員合同オリエンテーションを行いました

卒後臨床研修センター 教授 おおしま なおき  
大嶋 直樹

本年も桜の季節を迎え、新たに78名の臨床研修医・看護職・医療技術職が社会人・専門職としての新たな一歩を踏み出しました。2026年4月1日(水)から始まった入職時研修では、全ての医療職が合同で参加し、社会人・組織人としての基本的な心構えや病院の概要を学ぶことからスタートしました。その後、チーム医療や医療安全、感染対策などの講義に加え、静脈穿刺などの技術演習、BLS研修、防災訓練など、実践的な研修を行いました。

臨床研修は医師法および歯科医師法第16条に基づくものであり、医科は2年間、歯科は1年間の初期研修を行います。この研修を修了して初めて、保険医として診療に従事することが可能となります。辞令交付式に漂う張り詰めた空気は、彼らの新しい出発にふさわしく、緊張の中にも将来への大きな可能性を感じさせる姿が深く心に残りました。それを支える私たち卒後臨床研修センターのスタッフも、あらためて身の引き締まる思いで取り組んでいく次第です。一方で臨床研修に伴う精神的・身体的負担は決して軽いものではありません。どうか研修医たちを温かく見守っていただきながら、時には背中をそっと押すようなお声がけをいただければ幸いです。島根における次世代の医師育成に、今後とも引き続きご協力をお願い申し上げます。



辞令交付式



医療安全研修



静脈穿刺研修

問合せ先 卒後臨床研修センター TEL : 0853-20-2714

## うさぎ保育所の卒園式を行いました

総務課総務係

2026年3月25日(水)、当院の敷地内にあるうさぎ保育所において、令和7年度卒園式を厳粛な雰囲気のもと執り行いました。当日は、卒園児12名が出席し、保護者の皆様ならびに職員が見守る中、園生活の集大成となる大切な節目を迎えました。

式典では、園長が祝辞を述べた後、卒園児一人ひとりに卒園証書を授与しました。名前を呼ばれた園児が順番に、これまでの日々で培ってきた経験や成長の証を胸に、落ち着いた表情で証書を受け取る姿が印象的でした。また、園生活を振り返る場面では、友だちや職員との思い出がよみがえり、会場は終始温かな雰囲気に包まれました。節目の日にふさわしく、門出を祝う穏やかなひとときとなり、子どもたちの成長をあらためて実感する、心に残る式典となりました。子どもたちの成長した姿から未来への期待が広がる時間でもありました。

これまで本園の保育活動に対し、深いご理解と多大なるご協力を賜りました保護者の皆様、ならびに地域をはじめとする関係各位に、心より感謝申し上げます。卒園児の皆さんが、今後それぞれの新たな環境においても健やかに成長され、希望に満ちた日々を歩まれることを、職員一同、心よりお祈り申し上げます。

問合せ先 総務課総務係 TEL : 0853-20-2016



2026年5月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年5月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年5月

# ご報告



島大病院ニュース 2026年5月

# ご報告



## 世界緑内障週間「ライトアップinグリーン運動」 出雲大社、日御碕灯台、TSK本社鉄塔、山陰合同銀行本店ビルなどをライトアップ

眼科学講座 たかし りょうこ  
高橋 良子

2026年3月8日(日)～14日(土)の世界緑内障週間にあわせ、出雲大社、日御碕灯台、山陰中央テレビ(TSK)本社鉄塔、山陰合同銀行本店ビルおよび島根大学臨床講義棟玄関前、そして山陰両県の多数の医療機関を、緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、多くの方に緑内障への認知と理解を深めていただき、早期発見のための受診の重要性を広く知っていただくことを目的とした啓発活動です。

全国各地でライトアップや市民公開講座などの関連活動が行われ、メディアやSNSでも拡がりを見せています。今年度も当科が本運動の事務局を務めており、今年の参加施設数は海外施設を含めて1,237カ所となりました。伝えたいメッセージは、「早期発見・治療の継続・希望」です。「希望」には仲間や家族や主治医など支える人とともに治療をして「あなたの眼がずっと見えていますように」という思いを込めています。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願い、今後も継続していきたいと思っています。

問合せ先 眼科学講座事務局 TEL : 0853-20-2284



## 心不全多職種チームの資格取得について

循環器内科 たなべ じゅんや  
田邊 淳也

当院では、循環器内科医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、退院支援スタッフ、臨床工学技士、臨床検査技師などによる多職種チームで、心不全患者さんの療養支援に取り組んでいます。心不全は、再入院予防や生活の質の維持のために、入院中から退院後まで継続した支援が重要であり、多職種それぞれの専門性を生かした関わりが欠かせません。そのため当院では、日々の診療に加えて、スタッフ教育や資格取得支援にも力を入れています。

2025年度は6名のスタッフが、心不全患者さんへの生活指導や療養支援に関する専門資格である「心不全療養指導士」の試験に合格し、1名が資格を更新しました。また、循環器病の予防や療養支援に必要な知識を学ぶ「循環器病アドバイザー」も13名が受講し、このうち3名は両資格に取り組みました。今回の資格取得にあたっては、島根県脳卒中・心臓病等総合支援センターにもご支援をいただきました。

多忙な業務の中で学びを重ねた皆さん、そして支えてくださった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も多職種で連携し、地域の循環器診療の充実に努めてまいります。

問合せ先 循環器内科医局 TEL : 0853-20-2249



2026年5月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年5月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





病院長表彰式集合写真



表彰式の様子

## 令和7年度病院長表彰式を実施しました

総務課人事係

2026年3月18日(水)に令和7年度病院長表彰式を行いました。

本表彰は、当院における病院経営改善や業務改善等の運営面において、特に顕著な貢献をした職員に対し、病院長が表彰を行うものです。具体的には、医療の質の向上、臨床研究の向上、人材の育成などへ貢献した者のほか、1年間の英語論文の執筆の多い診療科(教職員)が選ばれます。

本表彰制度は、病院運営に貢献した職員の功労に報いるとともに、職員の勤務意欲の向上および病院改革の推進を図ることを目的としています。今回は、推薦のあった個人・団体あわせて12部門において表彰し、表彰状と併せて記念品を贈呈しました。

当日は受賞者のほか推薦者も列席し、受賞に至るまでの取り組みや功績が紹介されました。功績を称える厳粛な雰囲気の中にも、あたたかく和やかな空気が会場を包む表彰式となりました。

病院長からは、日頃の取り組みと尽力への感謝が述べられるとともに、職種の枠を超えた連携の重要性に触れ、地域医療のさらなる発展に向けて今後の活躍を期待し激励の言葉が贈られました。



記念品

問合せ先 総務課人事係 TEL: 0853-20-2022

